



成田 あれ・これ

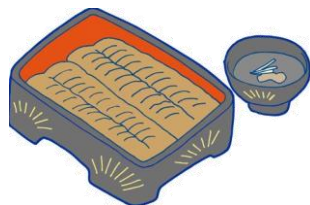


令和8年8月号 第374号

発行：(一社)成田市観光協会
成田市花崎町839
0476-24-3198

成田うなぎ祭り 7/17(金)～8/30(日)

江戸時代から続く「成田のうなぎ」を多くの皆様に知って頂く為に、今年も「成田うなぎ祭り」を開催します。



今年で22回目を迎え、116店の参加店が、アイデア溢れるうなぎ料理や成田の特産物などの多彩な品々を沢山ご用意してお客様をお待ちしております。

イベント期間中は、各参加店でのお食事やお買い物1,000円につき1個スタンプを押印します。2店舗以上を巡りスタンプを3個集めると、豪華賞品が当たる抽選会にご応募できます。

古い由来のある成田のうなぎ。江戸時代には「成田詣」が盛んになり成田は繁栄しました。門前町の旅館では、江戸でうなぎの人気の高まるにつれて夏場のうなぎ料理を売り物として、お客様をおもてなしました。この名残で、成田山周辺を中心に成田市内には、うなぎ料理を出すお店が今でも数多くあるのです。

距離800m、徒歩約15分の成田山表参道には古くからの旅館や料理店が連なり、数多くの飲食店がうなぎ料理をメニューに入れています。これだけの密度でうなぎ屋さんが集まっている例は全国でも珍しいと言えます。

この機会に是非、成田の食や文化に触れることができる、うなぎのぼりの街 成田にお越し下さい。

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会

TEL 0476-22-2102



成田山みたま祭り 盆踊り大会

8/23(日)・24(月)

長い歴史のある成田山みたま祭り盆踊り大会は、市民全体の祭りとして、女人講をはじめ市内の多くの踊り手が参加します。浴衣を着た小さな子供達も踊りの輪に加わり、成田ゆかりの曲に合わせて踊ります。

見物の方も一緒に、夏の夜を楽しむことができます。

皆で踊るととても楽しいです。飛び入りでのご参加も大歓迎ですので是非お越し下さい。皆で楽しい夏の思い出づくりをしてみませんか？

【日付】8月23日(日)・24日(月) 18時30分～21時

※両日雨天の場合は25日(火)に順延。25日(火)雨天時は中止となります。

23日は、18時30分から戦没者慰霊と新盆精霊、先祖供養の法要が成田山の僧侶により執り行われ、そのあと盆踊りが開始されます。

【開催場所】成田山弘恵会田町駐車場(成田山新勝寺門前)

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会 TEL 0476-22-2102



滑河観音 四万八千日 (しまん はっせんにち)

「四万八千日」は、観音様の深いご縁がいただける日です。この日にお参りすると、四万八千日お参りしたのと同じ御利益があると言われています。

新しい仏様と2年目の仏様の精霊棚にお供えする為のお札と鬼灯(ホオズキ)をお求めいただけます。

(お札は8月からお求めいただけます。)

8月8日～11月18日まで、内陣の大きな厨子を開扉します。この機会に、一丈二尺の中本尊様にお会いください。

【日 時】 8月9日(日)

【場 所】 滑河観音(龍正院) JR 滑河駅より徒歩15分

【お問合せ先】 滑河観音(龍正院) TEL 0476-96-0217



千葉県立房総のむら「むらの縁日・夕涼み」

「涼む」をテーマにし、夏にちなんだ製作体験、怪談話など、縁日の賑わいや夕涼みの雰囲気をお楽しみください。浴衣・甚平の方は入場無料です。16時30分以降の入場料は一般・高大生とともに100円となります。

【日 時】 8月22日(土)・23日(日) 12時～19時30分(開館時間に変更となります。ご注意ください)

【入 場 料】 一般300円、高・大学生150円、中学生以下と65歳以上は無料

【お問合せ先】 千葉県立房総のむら TEL 0476-95-3333

下総ふるさとふれあい納涼まつり

ふるさとふれあいづくりをテーマに、キャラクターショーをはじめ、ステージイベント、豪華景品の当たる大抽選会や盆踊り、模擬店など多彩なイベントで盛り上がります。

【日 時】 8月8日(土) 16時～20時30分 小雨決行(雨天の場合は下総公民館※内容一部変更あり)

【場 所】 下総運動公園 JR滑河駅より徒歩15分

【お問合せ先】 下総ふるさとふれあい納涼まつり実行委員会 TEL 070-4716-8852

成田山門前町に行く～その⑩

成田山の表参道、仲町の大きな坂を台の坂とよんでいました。昔は上町と幸町を台町といい、成田山から台町に上る坂であるから台の坂とつけられたと言われています。

この坂は現在では舗装がされていますが、昔は丸太を横に並べて土留めをした階段様式の坂であり、



その用材には三宮神社の松の木が使われていました。

ここは成田山の参道というだけでなく、香取・鹿島神宮への通り道でもあったため、人馬の往来が激しく丸太の痛みが早いので、江戸時代には何度も修理が施されていました。また雨が降ると道がぐしゃぐしゃになって足が取られ、参詣人は難儀したようです。

これを文化12年(1815年)に成田山講中の人達がお金を出し合い、丸石を敷き詰めて石段にしましたが、丸石ではゴロゴロして歩くのが危なく、馬の足も石の間に入ったりしてしまいました。その後、文政6年(1823年)に講中の人達により、平石を使って修理がされました。

当時の台の坂を、浮世絵師二代目歌川広重が「下総成田山境内」として描いていますが、これを見ると石段に沿って二階建ての旅籠屋や茶店などが立ち並び、賑わっていたことが解ります。

今のように石段が坂になるのは明治年間のことで、銚子石が敷かれた急な坂道になりました。現在も古くからのお店が軒を連ね、古き良き時代を彷彿とさせる街並みとして親しまれています。(次回へ続きます。)

☆イベント等の関連情報については、FEEL 成田(<https://www.nr+k.jp>)をご覧ください。☆